

# 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査（EDOR）報告

## 第63回（2018年10-12月期）

2019年1月25日

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合先：曾我亘由（愛媛大学総合地域政策研究会）tel. 089-927-9238

安丸雄介（愛媛県中小企業家同友会）tel. 089-948-9920

文章：曾我亘由（愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科教授）

集計：松岡菜穂（愛媛大学法文学部総合政策学科）

### 県内中小企業、人手不足はあるが企業努力により採算は改善

#### 【調査要領】

- (1) 調査期間 2018年12月1日 ～ 2018年12月31日
- (2) 対象企業 愛媛県中小企業家同友会会員企業
- (3) 調査方法 郵送による自計記入
- (4) 回答企業数 調査対象企業数 420社、回答企業 101社（回答率 24.0%）

#### 【EDOR 調査結果概要】

（売上高、採算、採算水準、業況）

前回調査（2018年7-9月期）では、売上高DIは好転したが、その他の項目については悪化している項目が多く、とりわけ採算DIは、前年同期では4期連続悪化超、また、自社業況判断DIは前期比、前年同期比とも悪化しており、県内中小企業の景気は後退している可能性について触れた。今回の調査では、前回調査から全ての項目で改善がみられた。

まず、売上高DIについては、前期比で10.3から29.3へと19.0ポイント好転し、前年同期比については10.3から13.0へと2.7ポイント好転した。採算（経常利益）DIについても、前期比で-4.7から21.2へと25.9ポイント、前年同期比で-0.9から10.9へと11.8ポイント好転した。採算DIについて、前年同期比は4期連続で悪化超であったが、5期ぶりの改善となった。当期の採算水準DIについては54.0と前回の27.6から26.4ポイント好転した。自社業況判断DIについては前期比で-3.8から16.0へと19.8ポイント好転、前年同期比では-4.8から12.0へと16.8ポイント好転した。

採算が好転した企業にその理由をたずねたところ、売上数・客数の増加を挙げる企業がも

っとも多く、次いで売上単価・客単価の上昇を挙げる企業の割合が多い結果となった。一方、採算が悪化した企業についてその理由をたずねたところ、売上数・客数の低下がもっとも多く、次いで人件費の増加や原材料費・商品仕入額の上昇を挙げる企業の割合が多い結果となった。

判定会議では、採算の好転について議論を行った。これまでの調査結果において、採算 DI が 4 期連続で悪化超であり、その原因として物流費、燃料費、人件費等の増加により、売上が増加してもコストの増加によって採算が伸び悩んでいる状況が問題となっていた。今回の判定会議においても、人手の不足や物流費といった経営上の問題点について、意見があったが、「値上げはしやすい環境にあり、コストの上昇を売価に反映させることができた」、「人が集まらないことが返ってプラスにはたらいた」、「少ない人員で業務をこなさなければならず、結果的に個々の生産性が増加し、採算の増加につながった」、「状況の変化に対して柔軟に対応することで採算が増加した」、「付加価値の増加に力を入れた」といった意見が聞かれ、コストの増加を個々の企業努力によって改善させている姿が見受けられた。

#### (経営上の問題点・力点)

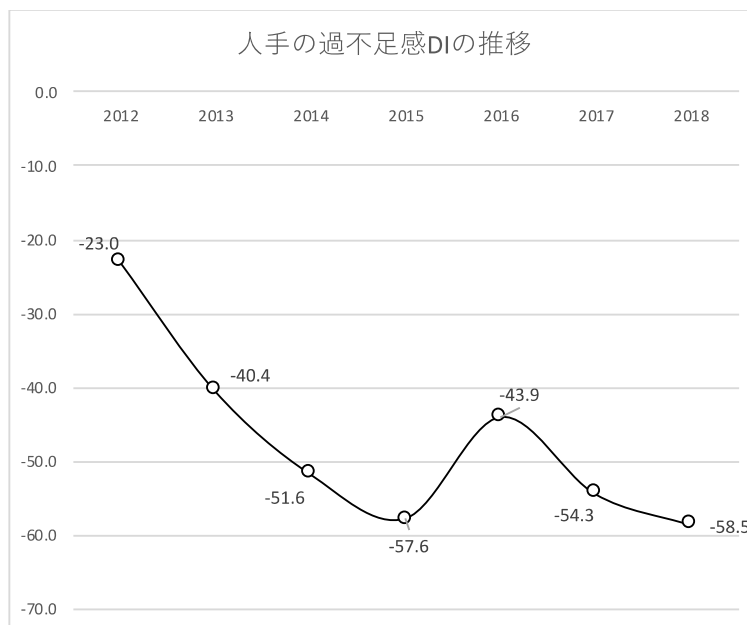
経営上の問題点については前回調査と同様、「従業員の不足」を挙げる企業の割合が 46.9% と最も多い結果となった。次いで「仕入れ単価の上昇」を挙げる企業の割合が 29.2%、「人件費の上昇」を挙げる企業の割合が 25.0% となり、前回同様、コストの増加が経営上の問題点として高い結果となった。また、「同業者相互の価格競争の激化」は 22.9%、「民間需要の停滞」を挙げる企業の割合 16.7% であり、前回同様、経営上の問題点としては低い値で推移している。

経営上の力点については前回と同様、「新規受注の確保」、「社員教育」、「人材確保」、を挙げる企業の割合が多い結果となった。経営上の問題点で挙がっていた従業員の不足については「社員教育」と「人材確保」で補う一方、コスト面の悪化については「新規受注の確保」に力を入れている状況が見受けられる。また、付加価値の増大についても、ここ 1 年間の調査では低下傾向であったが、今回は 37.4% と大きく増加する結果となった。

以上の結果から、今回の調査では、すべての項目について DI 値は好転し、悪化傾向であったは業況は踏みとどまる結果となった。前期比の好転については、季節的要因が含まれていると考えられるが、人件費や仕入れ単価等のコストの増加が経営上の問題点として挙げられている中で、前年同期比において DI 値が改善している点は、県内経済にとってプラスの材料である。この改善が一時的なものなのかについては、次期の調査結果を注視する必要がある。

### 【特別調査】

今回は特別調査として雇用・採用に関する調査を実施した。雇用に関する調査は第59回（2017年10-12月期）および第60回（2018年1-3月期）に実施した。まず、従業員数、労働時間、労働の過不足感について聞いたところ、2017年10-12月期と比較して正規従業員を増加させた企業の割合は20.0%（2017年調査：17.8%、2016年調査：22.1%）、減少させた



企業は16.8%（2017年調査：17.8%、2016年調査：11.5%）、横ばいと回答した企業は63.2%（2017年調査：64.6%、2016年調査：66.4%）となった。正規従業員数を増やした企業の割合は前回調査から増加したが、その伸びは2.2ポイントにとどまり、昨今の従業員不足に対応できていない結果となった。

一方、パート・アルバイト数については、増加させた企業の割合は24.4%（2017年調査：31.3%、2016年調査：29.2%）、減少させた企業の割合は7.8%（2017年調査：10.8%、2016年調査：10.6%）、横ばいと回答した企業の割合は67.8%（2017年調査：57.8%、2016年調査：60.2%）という結果となっており、パート・アルバイト数を前回から変化させていない企業の割合が増加した。

所定外労働時間が増加した企業の割合は13.7%（2017年調査：14.8%、2016年調査：21.5%）、減少した企業の割合は14.7%（2017年調査：14.8%、2016年調査：14.9%）、横ばいと回答した企業の割合は71.6%（2017年調査：70.5%、2016年調査：63.6%）という結果となり、前回とほぼ変わらない結果となった。

労働の過不足感DIについては、労働力が過剰、やや過剰と回答した企業の割合は6.4%（2017年調査：7.6%、2016年調査：10.6%）、これに対し、不足、やや不足と回答した企業の割合は64.9%（2017年調査：62.0%、2016年調査：54.5%）となり、DI値は-58.5となった。この値は2015年調査では-43.9、2017年調査では-54.3であり、前回からさらに悪化する結果となった。県内中小企業の雇用環境は依然として深刻な人手不足の傾向にあるが、一方で、それが採用に結びついていない現状となっている。

# 第63回(2018年10-12月期)EDOR 調査結果

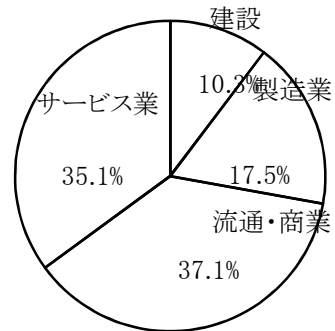
## 回答企業の基本情報

業種(4業種分類)

	社	%
建設業	10	10.3
製造業	17	17.5
流通・商業	36	37.1
サービス業	34	35.1
合計	97	100.0

※1社…農業

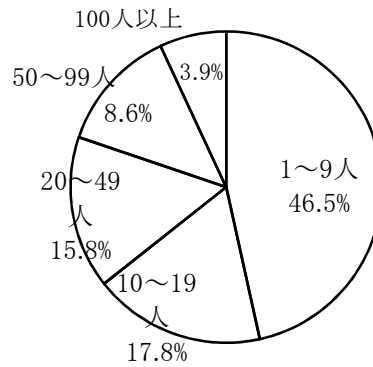
業種



常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1～9人	47	46.5
10～19人	18	17.8
20～49人	16	15.8
50～99人	13	12.9
100人以上	7	6.9
合計	101	100.0

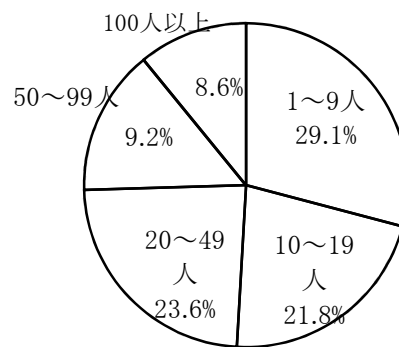
正規従業員数



臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数

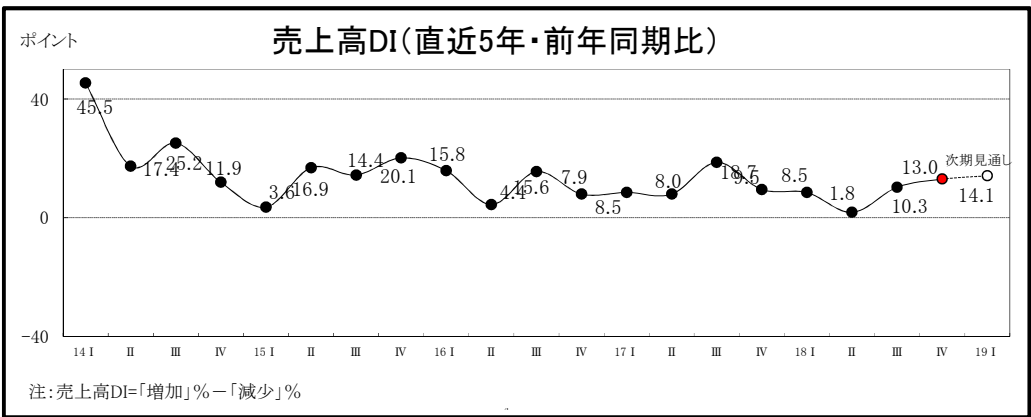
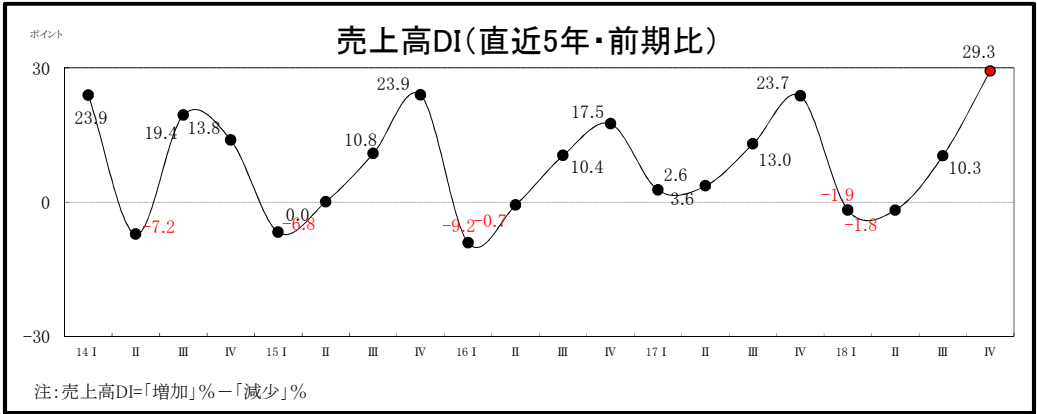
	社	%
1～9人	32	29.1
10～19人	24	21.8
20～49人	26	23.6
50～99人	16	14.5
100人以上	12	10.9
合計	110	100.0

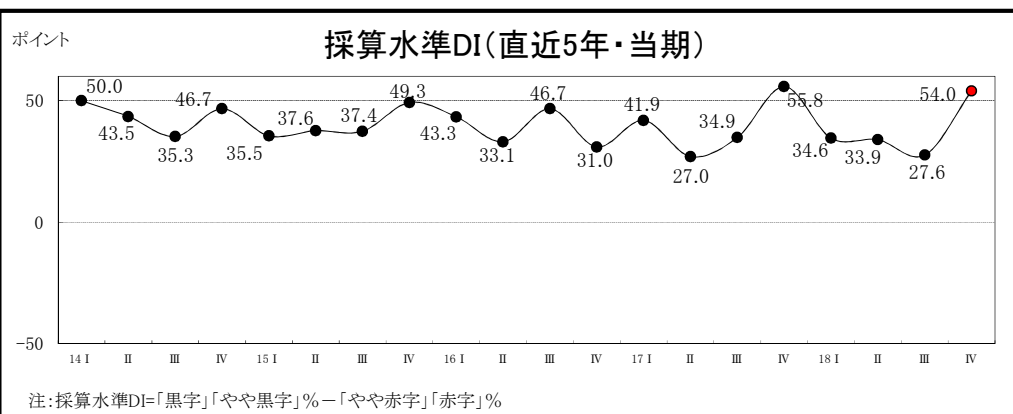
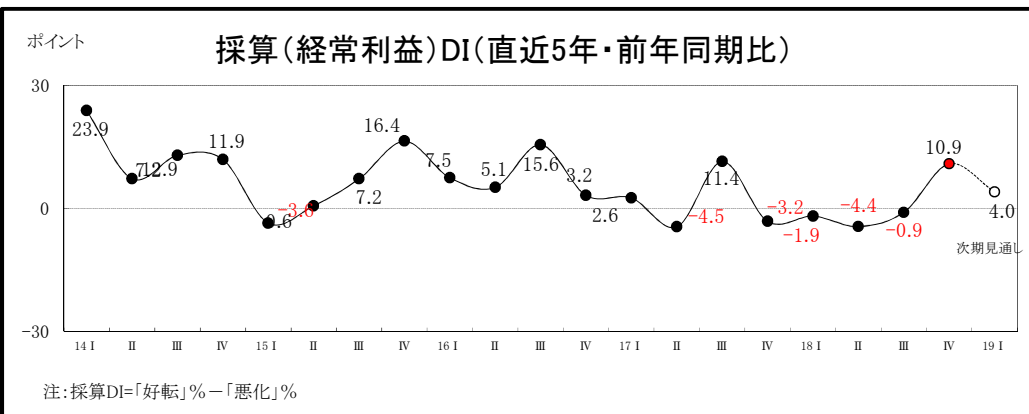
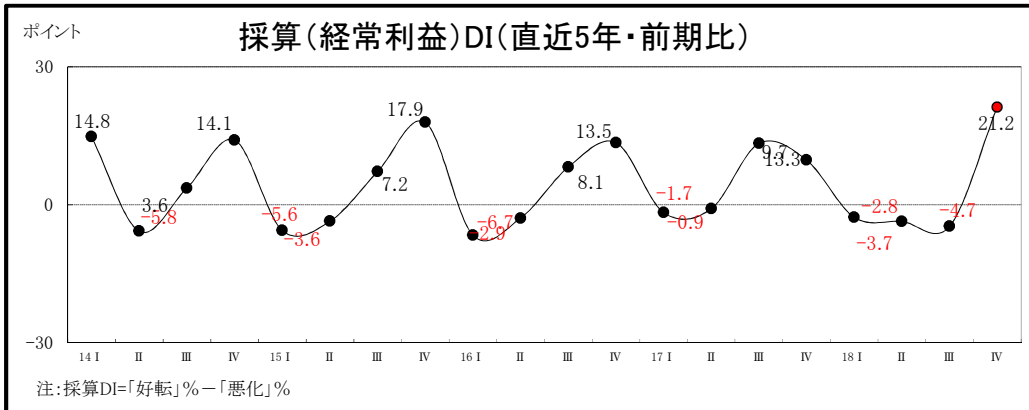
総従業員数



従業員数の平均と中央値

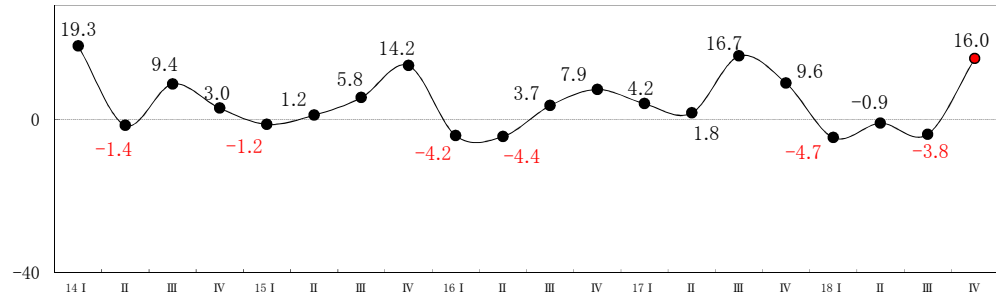
	人
常勤役員を含む正規従業員数	
平均	31.3
中央値	12
臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数	
平均	52.5
中央値	17





ポイント

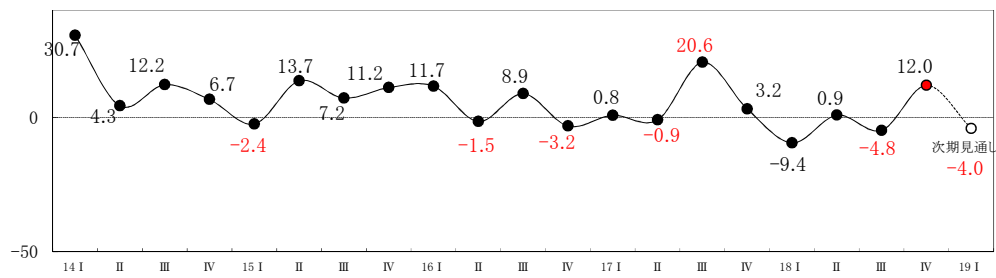
### 自社業況判断DI(直近5年・前期比)



注:設問:各企業の経営状況全般について、業況判断DI=「好転」%-「悪化」%

ポイント

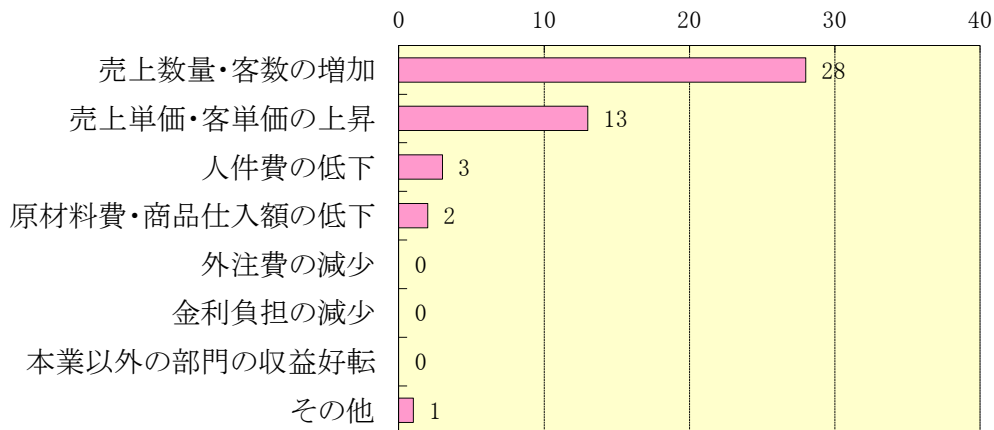
### 自社業況判断DI(直近5年・前年同期比)



注:設問:各企業の経営状況全般について、業況判断DI=「好転」%-「悪化」%

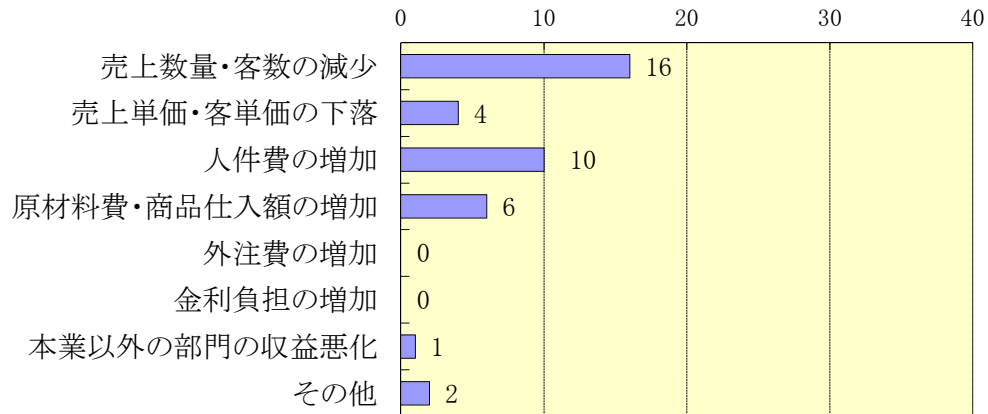
### 採算好転の理由

回答数



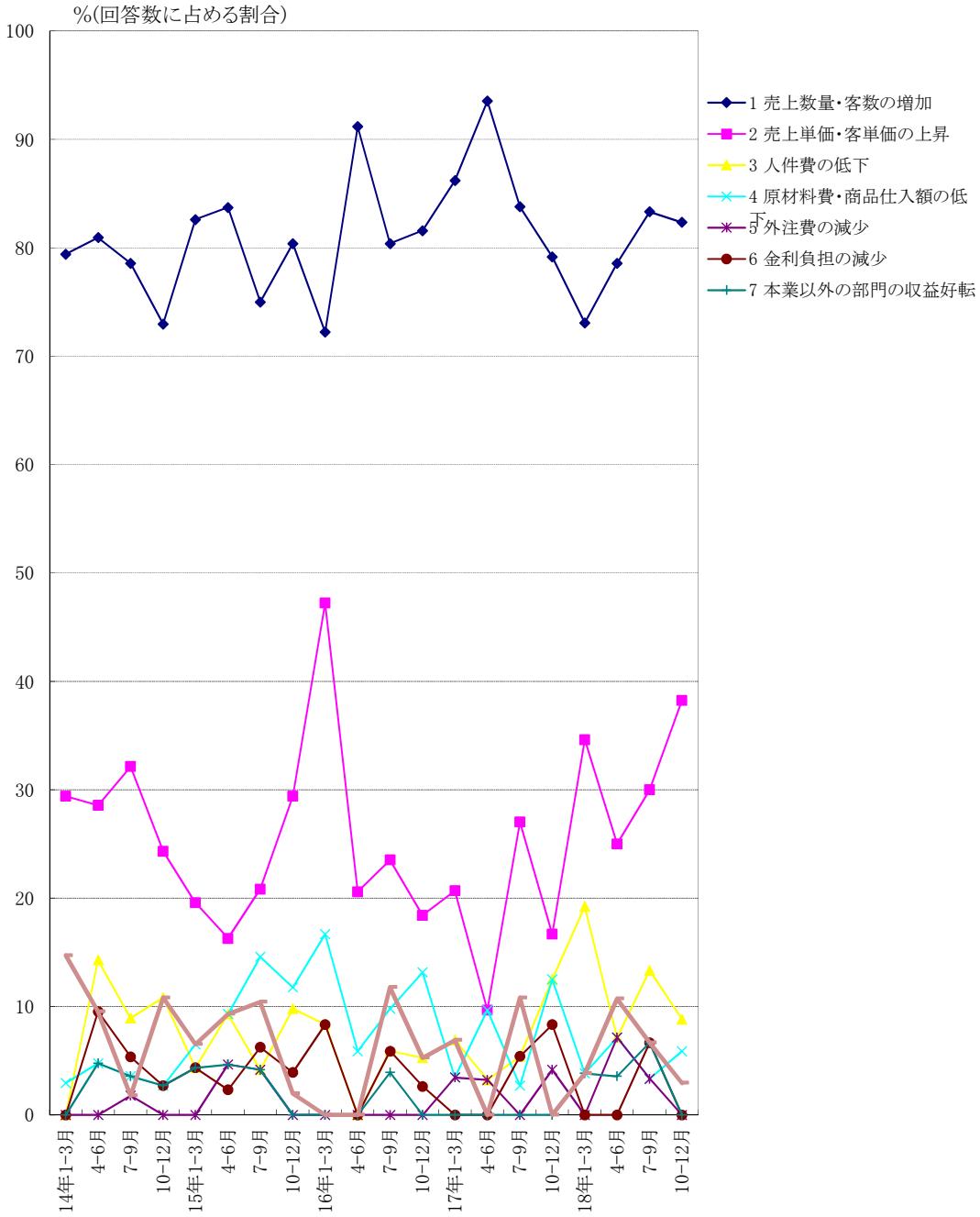
### 採算悪化の理由

回答数



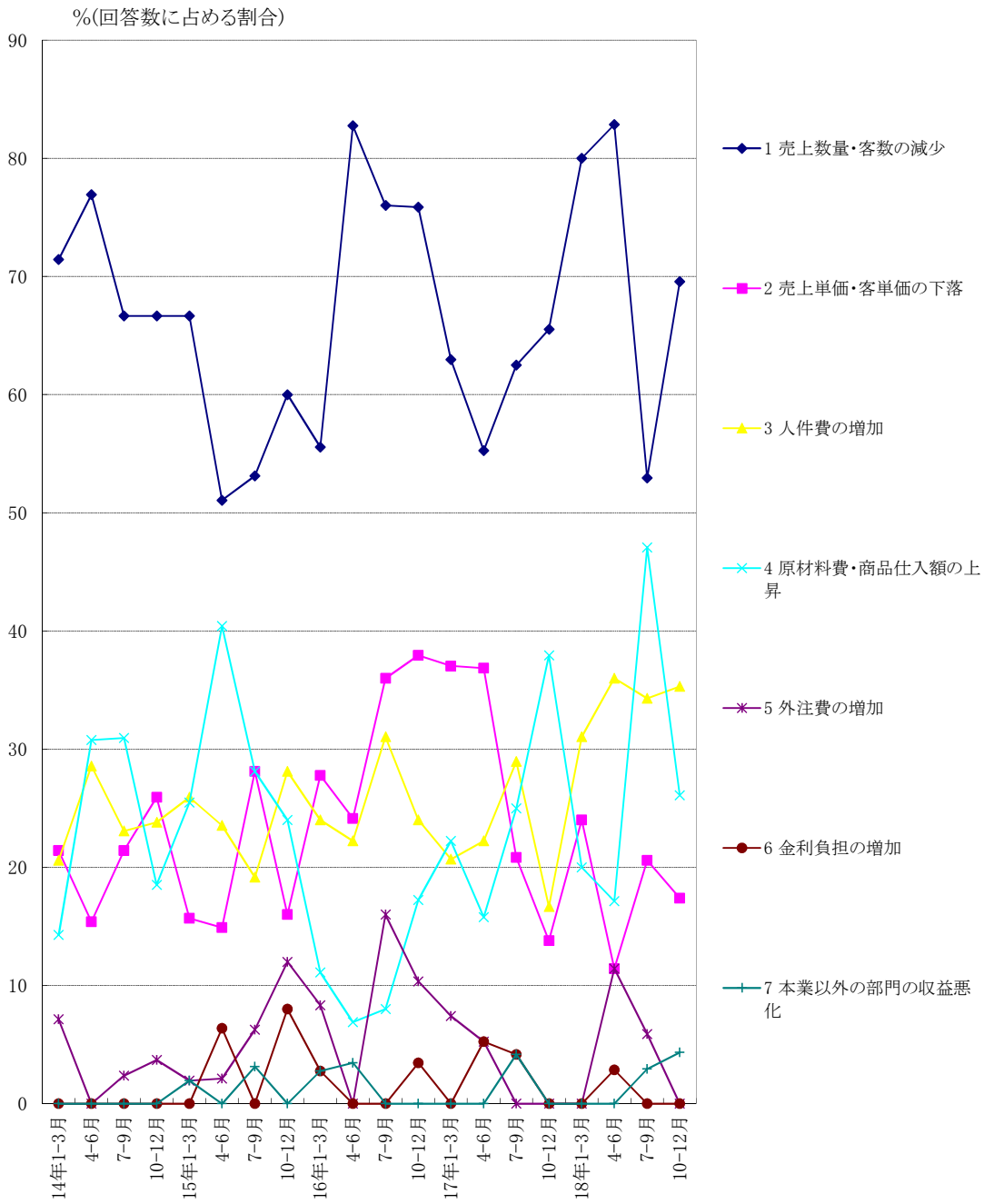


## 採算好転の理由の推移(直近5年)



(備考) 選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

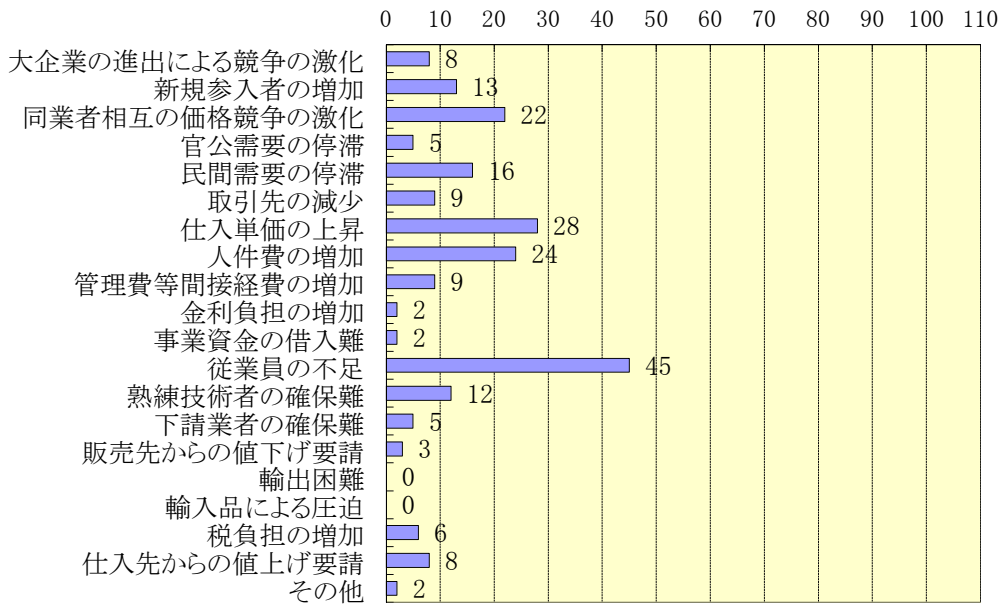
## 採算悪化の理由の推移(直近5年)



(備考)選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

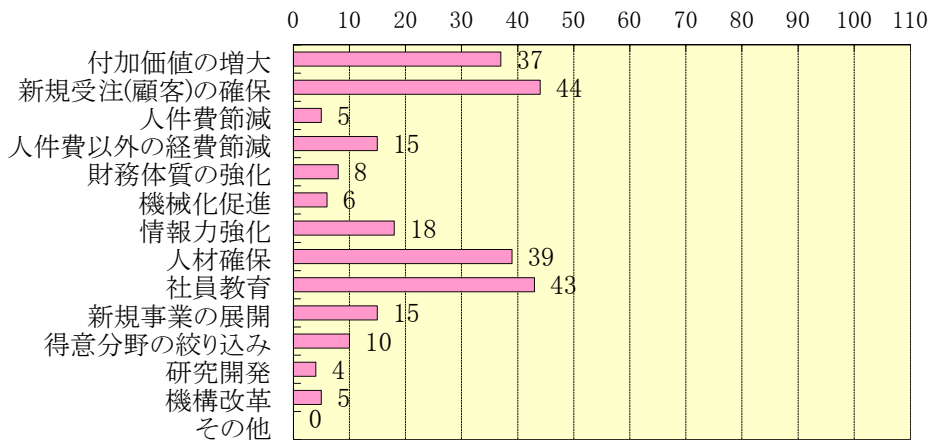
### 経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



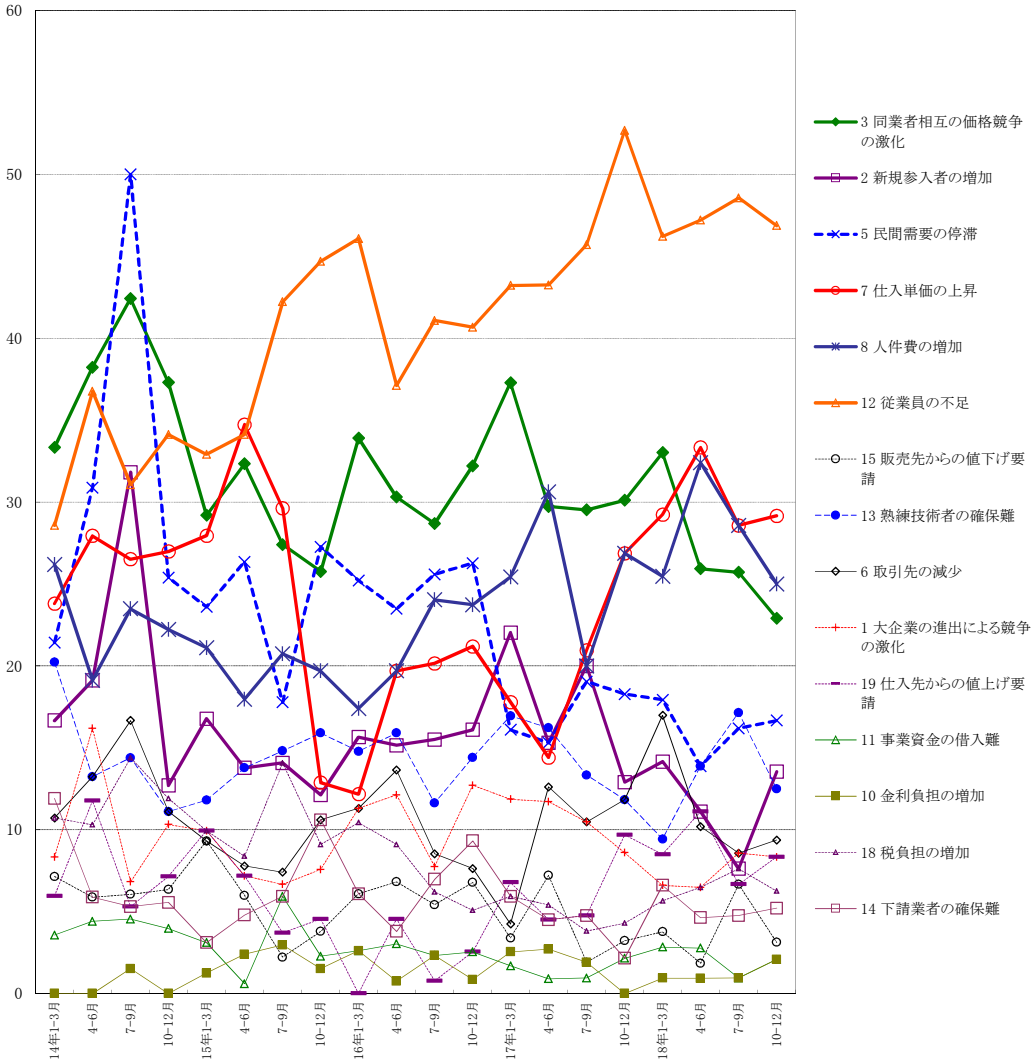
### 経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



# 今期における「経営上の問題点」の推移(直近5年)

% (回答数に占める割合)



## 次期に考える「経営上の力点」の推移(直近5年)

